

資源環境研究課 令和2年度取組み課題一覧

No	(品目) 課題名	研究内容	研究期間	担当
1	(スギ) 成長に優れた苗木を 活用した施業モデルの開発	優れた成長特性をもつ苗木による下刈り作業の省力化を実現するため、植物の生産性や品質を改善させる抗酸化物質・グルタチオン施用による育苗技術を確認	H30 ～ R4	森林 資源
2	(スギ) 乾燥ストレスに強い 林業用苗木の創出	かん水が困難な奥地に位置する造林地における植栽前の苗木の乾燥ストレスを軽減するため、酢酸を主成分とし乾燥ストレスを軽減させる資材を用いて、高温・乾燥への耐性が高い苗木を創出する。	R2 ～ R4	森林 資源
3	(スギ) スギ2×4工法部材の開発	生産増が見込まれるスギ大径材の利用拡大を図るため、住宅着工でシェアを伸ばしながらも外材が大半を占めている2×4工法向け部材を開発する。	R1 ～ R3	森林 資源
4	(スギ) 中・大規模建築物等における大径材製材の 新たな利用技術開発	事業所や店舗・公共建築物など広い空間が求められる非住宅分野でのスギ大径材の利用拡大を図るため、大断面の柱と土台・梁を金物で接合した新たな工法を開発する。	R1 ～ R3	森林 資源
5	(スギ) スギ製材時に発生する 変形抑制技術の確立	スギ大径材の製材・乾燥時に発生する反りや曲がりなどによる歩留まり低下を抑制するため、製材前の熱処理により変形や割れなどを防止する技術を確認する。	R2 ～ R4	森林 資源
6	(スギ) 難燃処理技術により 開発した 準不燃木材のパネル化技術 の確立	民間企業と開発し、特許・国交大臣認定を受けた「準不燃木材」の低コスト化と用途拡大を図るため、入手が容易な既製の製材品を接合してパネル化する技術を確認する。	R2 ～ R4	森林 資源
7	(キクラゲ) シタケ栽培施設を 利用した キクラゲ栽培技術の開発	シタケとアラゲキクラゲの複合経営を実現するため、夏季の空調コスト削減を実現する温・湿度の解明、菌床培地の違いによる品質向上技術を確認する。	R1 ～ R3	森林 資源
8	(シタケ) 温度管理を駆使した 菌床しいたけ低コスト栽培 技術の開発	菌床しいたけ栽培の空調コスト削減を図るため、培養・発生時の施設内温度を昼夜の外気温の上下に合わせて変化させる管理技術を確認する。	R1 ～ R3	森林 資源
9	(シタケ) しいたけの生理特性に 基づく培養管理技術の確立	しいたけ種菌の特性に応じた培養管理を実現するため、県内の主力種菌について、菌糸の伸長に適した菌床内温度をサーモグラフィ等を用いて把握し、培養温度を最適化する技術を確認する。	R2 ～ R4	森林 資源
10	スマート林業構築に向けた ICTによる森林情報 取得技術の開発	スマート林業の実現に資するため、ドローンの空撮データから得られる材積等の情報と実測データとの相関をもとに、実測調査することなく立木の情報を取得できる技術を開発する。	R2 ～ R4	森林 資源
11	(香酸カンキツ) 農産物の機能性及び 食品加工に関する研究	香酸カンキツのブランド力強化を図るため、ユコウや阿波すず香に含まれる機能性成分の同定・定量を行う。	H30 ～	生産 環境
12	(香酸カンキツ) 果実丸ごと使い切り！ とくしま3大カンキツ+1 活用法	香酸カンキツの搾汁残さの有効活用を図るため、加工方法を探索するとともに、一次加工品の試作を行い、栄養・機能性を評価する。	R2 ～ R4	生産 環境
13	(水稻) 県産酒米安定栽培のための 精密施肥技術の確立	高品質な酒米の安定生産に資するため、堆肥等有機物の施用による土づくりで収量を維持しつつ、酒造適性に優れた低タンパク含量の酒米を生産する技術を確認する。	H30 ～ R2	生産 環境
14	(スダチ) スダチ貯蔵果実品質向上の ための夏肥施用法の確立	窒素成分の流亡により品質が悪化している貯蔵スダチの品質向上を図るため、夏肥の施用技術を確認する。	H30 ～	生産 環境
15	(レンコン) レンコン新品種「阿波白秀」 及び主力品種「備中」の 生育時期別養分吸収量の把	レンコン栽培における施肥の効率化を図るため、「阿波白秀」と「備中」について生育時期ごとの養分吸収量を把握し、施肥技術を確認する。	H30 ～ R2	生産 環境
16	(レンコン) レンコンの養分吸収量に 応じた施肥方法の確立	レンコン栽培における施肥の効率化を図るため、成分の流亡が懸念される慣行の基肥一発肥料に代えて、被覆により成分の溶出を調節できる緩効性の一発肥料を開発する。	R1 ～ R2	生産 環境
17	(ナシ) 地球温暖化に対応した ナシ栽培体系の確立	温暖化により耐凍性が低下しているナシの栽培体系を確認するため、耐凍性の低下に影響する窒素肥料の散布を、慣行の秋冬季から春季に変更した場合に生育・品質収量等に及ぼす影響・効果を調査する。	R2 ～ R4	生産 環境

資源環境研究課 令和2年度取組み課題一覧

No	(品目) 課題名	研究内容	研究期間	担当
18	土壌モニタリング調査	県内の農業用土壌を適正に維持するため、土壌類型・作物別に分類した152地点について、5年ごとに養分蓄積や肥培管理の状況を調査する。	H25 ～	生産 環境
19	(水稻・キャベツ・カンショ) 土壌型別有機資源連用試験 水田(水稻-キャベツ) 砂地畑(カンショ)	作物に適した肥培管理方法を確立するため、施肥の差が作物の生育・収量品質及び土壌に及ぼす影響について、調査する。	H24 ～	生産 環境
20	(カンショ) 川砂の手入れ砂効果 持続方策の検討	カンショ栽培に不可欠な手入れ砂に吉野川中流域の川砂を活用するため、手入れ砂としての川砂の効果を検証する。	H29 ～	生産 環境
21	肥料分析検査	肥料取締法に基づく適正な肥料の生産流通を図るため、肥料の内容成分の検査を実施する。	H13 ～	生産 環境
22	県内生産家畜糞堆肥分析 調査	肥料取締法に基づく適正な家畜糞堆肥の生産流通を図るため、畜産農家が製造販売する家畜糞堆肥の内容成分を調査する。	H17 ～	生産 環境
23	(カンショ) クロルピクリンが 引き起こすカンショ 初期生育不良軽減策の検討	土壌消毒に用いるクロルピクリンの効果的で安全な使用法の確立に資するため、残存量・水分量・ほ場の粒径組成等の調査を実施し、クロルピクリンがほ場に残留する原因の究明を図る。	R1 ～ R2	食の 安全
24	(スダチ・ユズ) 輸出促進に向けた果実の 農薬残留推定手法の開発	スダチ・ユズの輸出を促進するため、農薬散布直後から果実の生長過程で変化する残留量を計測し、出荷時に残留農薬を推定できる手法を確立する。	R2 ～ R4	食の 安全
25	輸出相手国での残留農薬 対策事業	農産物の安定した輸出に資するため、相手国の残留農薬基準に対応できるデータを蓄積し、病害虫防除指針の作成に活用するとともに、登録園地から輸出する農産物の残留農薬検査を行う。	H26 ～	食の 安全
26	(特産作物) マイナー作物農薬登録 拡大試験	全国的に生産量の少ない作物への農薬適用拡大を図るため、本県特産作物を対象にした薬効・薬害・作物残留に係る試験を実施する。	H17 ～	食の 安全
27	(スダチ等) 地域特産品における 農薬の安全性評価	より安全な農産物の生産を推進するため、農薬残留特性を解明し、安全性の評価を行う。	H19 ～	食の 安全
28	農林水産物の放射性物質 検査	県産農林水産物の安全性を確保するため、生産販売される農林水産物を対象に放射能検査を実施する。	H25 ～	食の 安全
29	I P M推進に向けた 技術開発	化学農薬に過度に依存しない総合的な病害虫防除技術(IPM)の推進を図るため、キュウリ・イチゴ・ネギ・ナシに係る防除体系を確立する。	H17 ～	病害 虫・鳥 獣
30	(キュウリ・ナス・ネギ) W-LED光を利用した 数種害虫に対する防除技術 の開発	ヤガ類・アザミウマ類を効率的に防除するため、黄色光でガ類、赤色光でアザミウマ類が防除できることを生かして、同時に2色を発するLED光を用いて複数種の害虫を防除する技術を確立する。	H30 ～ R2	病害 虫・鳥 獣
31	(ラッキョウ) 蒸気熱で消毒! 環境にやさしいラッキョウ 種球大量消毒技術の実用化	ラッキョウの赤枯病・ネダニ等の種球伝染性病害虫対策を確立するため、イチゴ苗の防除技術として開発された蒸熱処理装置を応用した防除方法を開発する。	H30 ～ R2	病害 虫・鳥 獣
32	(トマト) 画像解析による微小害虫 遠隔モニタリングシステム の構築	目視が困難なコナジラミ類を効率的に防除するため、黄色の粘着トラップで捕獲された害虫の画像データを収集・数値化するとともに、データ解析により将来の発生を予測し、適期に防除するシステムを構築する。	H30 ～ R2	病害 虫・鳥 獣
33	(キュウリ) 施設キュウリにおける 誘引株を利用した微小害虫 の防除技術の開発	ミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病(MYSV)の防除を図るため、土壌消毒剤のくん蒸・殺虫効果を検証するとともに、MYSV弱毒株に誘引される害虫の特性を生かした防除技術を確立する。	R2 ～ R4	病害 虫・鳥 獣
34	(モモ) サクラ・モモ等を加害する クビアカツヤカミキリ 防除法の開発	外来害虫・クビアカツヤカミキリの防除を図るため、化学・生物農薬の適用拡大試験や性フェロモンによる誘殺などを組み合わせたIPM技術を確立する。	H30 ～ R3	病害 虫・鳥 獣

資源環境研究課 令和2年度取組み課題一覧

No	(品目) 課題名	研究内容	研究期間	担当
35	(ナシ) 果樹のカイガラムシ類の発生調査	ナシ等のカイガラムシ類の防除体系構築の基礎とするため、ナシの天敵昆虫の誘引剤を用いた防除適期予測法とカンキツのヤネノカイガラムシの簡易な防除適期予測法について、実測値(観察結果)との相関を検証する。	R2 ～ R4	病害虫・鳥獣
36	新農薬実用化試験	農薬の適用拡大の資料とするため、登録に必要な薬効・薬害、残留の試験データを提供する。	S28 ～	病害虫・鳥獣
37	(カンキツ) 過酢酸製剤を利用したカンキツ果実の表面殺菌及び貯蔵病害抑制技術の開発	カンキツかいよう病の表面殺菌処理としてEUへの輸出時に求められる次亜塩素酸ナトリウム浸漬に代わる処理法を確立するため、食品添加物として認められている過酢酸製剤を利用した表面殺菌技術を確立する。	R1 ～ R3	病害虫・鳥獣
38	(カンキツ) 我が国の輸出に有利な国際的検疫処理基準の確立、実証委託事業	カンキツかいよう病の表面殺菌処理としてEUへの輸出時に求められる次亜塩素酸ナトリウム浸漬に代わる処理法を確立するため、収穫直後に高温処理することで殺菌する技術を確立する。	R1 ～ R2	病害虫・鳥獣
39	(獣害・サル) NB-IoTを活用した新たなGPS首輪システムの開発	サル群の行動範囲の予測により効率的な捕獲に資するため、省電力のナローバンド(NB)を用いてサル群に近づくことなくリアルタイムで動きを把握できるNB-IoT首輪を開発する。	H30 ～ R2	病害虫・鳥獣
40	(獣害・サル) GPS首輪システムによるサル群の広域的な被害対策	サル群の動向を把握するため、GPS首輪を装着したサルを通じて活動や増減状況をモニタリング調査する。	H26 ～	病害虫・鳥獣